

発行:余市協会病院

発行日:平成 29 年 4 月 1 日

発行人:吉田 秀明

編集人:広報委員会

お問い合わせ:0135-23-3126

VOL.154 4月号

はつらつ Plus

地域医療国際支援センター活動レポート

地域医療国際支援センター看護師の田中綾です。余市では昨年 8 月からお世話になっています。昨年 11、12 月にタイに研修へ行ってきました。その研修のことを紹介したいと思います。

タイの地域の病院での研修



研修期間中は主にミャンマーとの国境沿いのターソンヤン病院で過ごしました。ミャンマーとの国境のすぐそばという地理からタイ人のみならず、ミャンマーから医療を求めてやってくる人々も受け入れています。保険がない人々へも積極的にアプローチしています。救急車の受け入れから生活習慣病のスクリーニングまで活動内容は多岐にわたり、

また伝統医療のタイマッサージがあること、市町村の保健センターに相当する部署があることなど、日本とは異なり勉強になることが多かったです。

モバイルクリニックといって、病院から医療職のいない、またはわずかである地域へ赴いて医療を提供することもあります。低栄養により年齢より小さく見える子どもたちも多い村へ行くこともありました。途上国への支援というとは何かをすることにばかり目が向きがちですが、実際に行ってみるとそこに暮らす人々のシンプルな生活から、生まれることも死ぬことも特別なことではないことや、生きることや人としての生活そのものを考えさせられることもあり、学ぶことが多い研修となりました。

母子保健プロジェクト



ターソンヤン病院での研修では、地域のために一生懸命働くスタッフに感銘を受けました。少ない人数でできるだけのことをと頑張るスタッフのために、またそこに暮らす人々のために何かできることを、と母子保健プロジェクトを始めました。病院周辺にはカレン族という山岳民族が住んでいるのですが、タイ人よりも低出生体重児が生まれる割合が高い、妊婦検診の受診率が低いということがわかってきました。彼らはタイ語を話さないために、検診の内容がうまく伝わっていないのではないかと、妊婦検診の重要性について理解が乏しいのだろうか…。彼らの言葉で伝えよう！もっと妊婦検診に来てもらえるようにしよう！という思いで動き出しています。

受診のきっかけづくりとして古着の配布も計画しています。現在病院内で古着集めを呼びかけていて、たくさんの方から協力をしていただいています。余市からタイのお母さんたちへ。余市の皆さんからの思いと一緒に 5 月ごろに届ける予定です。その他にもカレン語の教育ビデオ作製や出産までの予定がわかるカレンダー作りなどを計画しています。

地域医療国際支援センター 外来看護師 田中綾



救急件数 (2月)

外来受診204件 うち入院51件
救急車来院64件 うち入院18件

医師異動のお知らせ



入 職

3月1日付

内科医師 秋野 恵美子

交 代

4月1日付

診療部長(外科医師) 横山 和之 → 診療部長(外科医師) 菊地 健

退 職

3月16日付

整形外科主任医長 安藤 恒平

3月31日付

内科医師 阿部 浩史

赤ちゃん用の古着を 集めています

タイ、ミャンマー国境沿いの地域では、病院や保健施設へのアクセスが悪く十分に妊娠期のケアが受けられていない妊婦さんがいます。

そんな妊婦さんと生まれてくる子どもを応援したい、そんな思いから母子保健のプロジェクトを始めました。

もう着なくなってしまった、小さくなってしまったという服をお持ちで、タイの妊婦さんへ寄付をしてくださる方がいらっしやいましたら、ご協力いただけると嬉しいです。

ターソンヤン母子保健プロジェクトについてはこちら→



集めているもの

新生児用の肌着、1-2歳児くらいまでの洋服、帽子や靴下

*洗濯済みのものをお願いします。
*汚れや破損がひどいものはご遠慮ください。

期間

2017年3月31日ころまで
*病院に直接持ってきていただくか、下記まで連絡ください。

お問い合わせ

余市協会病院
地域医療国際支援センター 田中綾
0135-23-3126



桃の節句

先月、桃の節句に合わせ雛人形をロビーに飾りました。

お雛様を将来の自分と重ね合わせ、やがて出会うであろう素敵なお内裏様に思いをはせながら雛壇に人形を飾った幼き日々。

共に成長し、時に親まかせになり後ろめたさを感じたりもした思春期。

そしてとうとう素敵なお内裏様に会いお嫁に行く時、お雛様を贈ってくれた祖父母や両親の自分への愛の大きさにあらためて気づき感動し涙する。

そしてその想いは生まれてくる子供たち、孫たちへと語り継がれてゆく。

素晴らしいですね、日本の文化って。